

検討の経緯

本基本構想は、有識者・交通事業者・商業関係者等で構成する「鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会」において検討を行い、構想原案の市民政策コメントを経て、承認されました。

今後は、本構想をより具体化する「鳥取駅周辺再生基本計画」の策定など事業実施に向けた取り組みを進めていきます。

	開催日・期間	主な内容・議題など
準備会	令和2年4月30日	・令和元年度基礎調査結果の報告、第2期基本構想の策定に関する説明 ・鳥取駅周辺再整備に関する意見交換
第1回	令和2年6月2日	・第2期基本構想の策定意義・策定検討に向けた論点等の共有 ・鳥取駅周辺の課題に関する意見交換
第2回	令和2年8月17日	・第2期基本構想に掲げる再生ビジョン（案）の提示 ・再生ビジョン（案）に関する意見交換
第3回	令和2年11月4日	・第2期基本構想に掲げる再生ビジョン（理念・将来像・整備方針等）の提示 ・再生ビジョンに関する意見交換（大枠で合意）
第4回	令和2年12月24日	・第2期基本構想（案）の提示 ・基本構想（案）に関する意見交換（大枠で合意）
パブコメ	令和3年1/8～1/27	・第2期基本構想（案）に関する市民意見の募集（鳥取市HP掲載） ・市民政策コメント（パブコメ）の実施
第5回	令和3年2月16日	・パブコメ意見の紹介、修正事項の説明（基本構想修正案の提示） ・第2期基本構想（修正案）の最終審議・承認

■策定委員会委員

所属団体名等	氏名	備考
鳥取商工会議所 専務理事	中山 孝一	委員長
東京都立大学都市環境学部観光科学科 助教	大平 悠季	副委員長
鳥取環境大学経営学部 准教授	倉持 裕彌	委員
新鳥取駅前地区商店街振興組合 理事長	英 義人	委員
鳥取本通商店街振興組合 理事長	高橋 俊夫	委員
末広温泉町商店街振興組合 理事長	渡辺 建夫	委員
鳥取市中心市街地活性化協議会 プロジェクトマネージャー	野崎 俊佑	委員
西日本旅客鉄道(株)米子支社 地域交通・まちづくり課長	国森 浩	委員
日本交通(株) 代表取締役社長	澤 志郎	委員
日ノ丸自動車(株) 営業部長	赤嶋 三千男	委員
鳥取県ハイヤータクシー協会 副会長兼東部支部長	岡 周一	委員
(一社)鳥取市観光コンベンション協会 観光事業課リーダー	山中 薫	委員
鳥取民藝観光まちづくり協議会 会長	木谷 清人	委員
(一社)地域サポートネットワークとっとり 代表理事	山口 朝子	委員
とっとり若者地方創生会議	牛木 のどか	委員
明德地区自治連合会副会長	木下 知之	委員
日進地区自治連合会会長	入江 峰生	委員

今後の取り組み

駅周辺地区のめざすべき将来像の実現に向け、関係者間で今後取り組むべき先導事業等の検討、協議・調整の上、各種調査の実施や計画の策定、社会実験等を進めていきます。

なお、今後の具体的な検討にあたっては、社会情勢の変化や新技術、デジタル技術などの技術革新等も考慮しながら、検討を行います。

発行者

鳥取市 都市整備部 中心市街地整備課（市役所本庁舎5階）

電話 0857-30-8331

FAX 0857-20-3953

shigaichiseibi@city.tottori.lg.jp



鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）

【概要版】



人が集い 交流し 魅力あふれる街

～『鳥取OACIS』の創造～

目的

本市では平成23年9月に「鳥取駅周辺再生基本構想」を策定し、官民連携による再生に向けた取り組みを進めてきましたが、人口減少や少子高齢化、新型コロナウイルス危機などを踏まえ、その取り組みをさらに展開・継続していくため、「鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）」を策定します。

対象区域

対象区域は、平成30年3月内閣総理大臣認定の「第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画」に定める区域のうち、駅周辺を中心とした区域としました。※広域的に検討が必要な課題については、この範囲外も対象とします。

期間

第2期基本構想は、令和3年度から令和12年度までの「10年間」を対象期間とし、今後10年間で優先的に取り組むべき基本方策について整理します。





めざすべき将来像

- ① 回遊性と滞留性を持たせた人が行き交う多層交流結節ゾーンの形成
～居心地が良く歩きたくなるまち～
- ② 多様な機能が高度に集積した広域圏対応型拠点の形成
～人が集まる魅力のあるまち～
- ③ 持続可能な地域社会の実現に向けた都市環境等の形成
～未来に続き、受け継ぐまち～
- ④ 誰もが便利で安心、住み続けたいと思える快適な生活空間の形成
～住み続けられるまち～

駅周辺地区再生の基本理念

将来像の実現のため、駅周辺の再生に取り組む基本方針は、次のとおりです。

人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS』の創造

(趣旨)

駅周辺地区では、市の広域交通の起点 (Origin) として魅力的 (Attractive) で人々が集い・交流 (Communication) が進み、また新時代に対応した各種情報 (Information) がますます集積する、持続可能 (Sustainable) なまちづくりをめざします。

(実現に向けた視点)

- ① 賑わい
 - ・人々が集い賑わいを生む駅前空間を「賑わいの起点」として積極的に活用します。
 - ・さらに、その場所から生まれる賑わいを駅周辺へと拡げることにより、エリア全体の価値が向上することをめざします。
- ② 憩い
 - ・駅前と駅周辺との物理的・心理的バリアを取り除き、市民や来訪者が気軽に憩い過ごせる「憩いの場」となるよう、駅前と駅周辺が一体となったエリア形成をめざします。
- ③ 適応
 - ・公民連携のもと、新型コロナ危機を契機とした社会構造の変化に適応した「鳥取OACIS」の創造をめざします。
 - ・さらに、今後の技術革新や社会的要求の変化等へも柔軟に適応することをめざします。

実現に向けた基本方針

将来像の実現のため、駅周辺の再生に取り組む基本方針は、次のとおりです。

① 市民や観光客の来訪目的になる施設・機能の付加

- ・オープンスペースの積極的活用
- ・市民が日常的に通える機能の充実 (余暇活動など)
- ・地域資源の活用 (文化・観光など)

② 安心して集える仕組みづくり

- ・公共空間のオープンな利活用
- ・新しい生活様式に対応した機能の付加
- ・防災機能の付加

③ 空間の連続性・快適性・楽しさの創造

- ・歩行空間の魅力向上
- ・安全・便利に駅と周辺をつなぐ
- ・公共交通の利便性向上のための機能拡充
- ・自転車の回遊性向上

④ 歩行者優先の空間の再編

- ・誰もが歩きやすい歩行空間整備
- ・駐車場利用者の利便性向上

⑤ 情報発信機能の充実

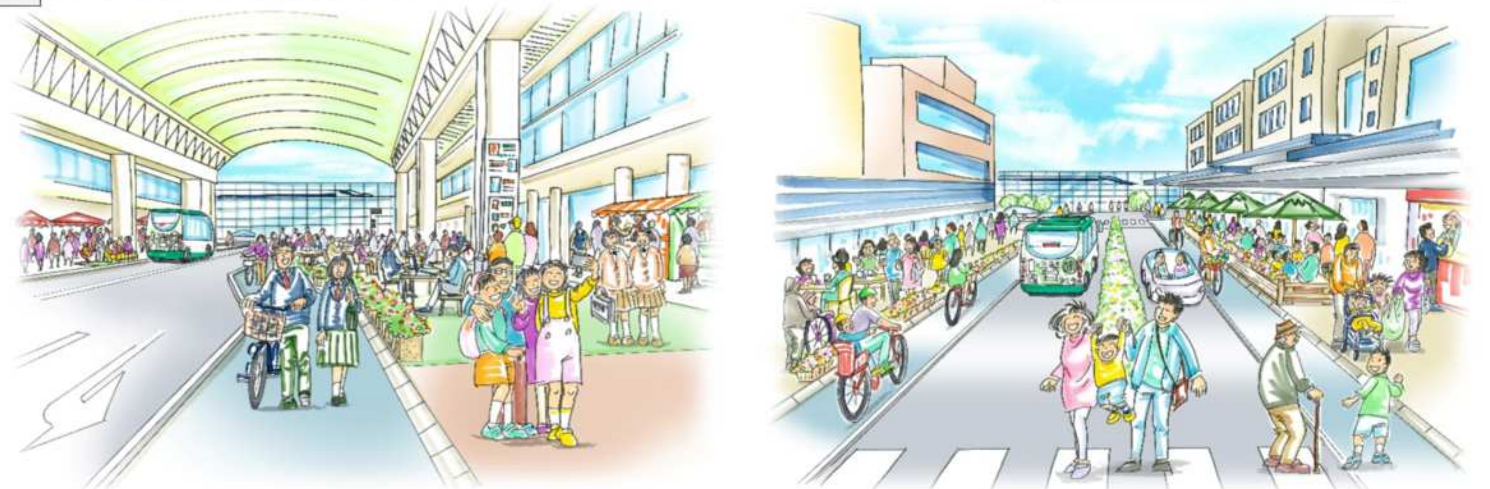
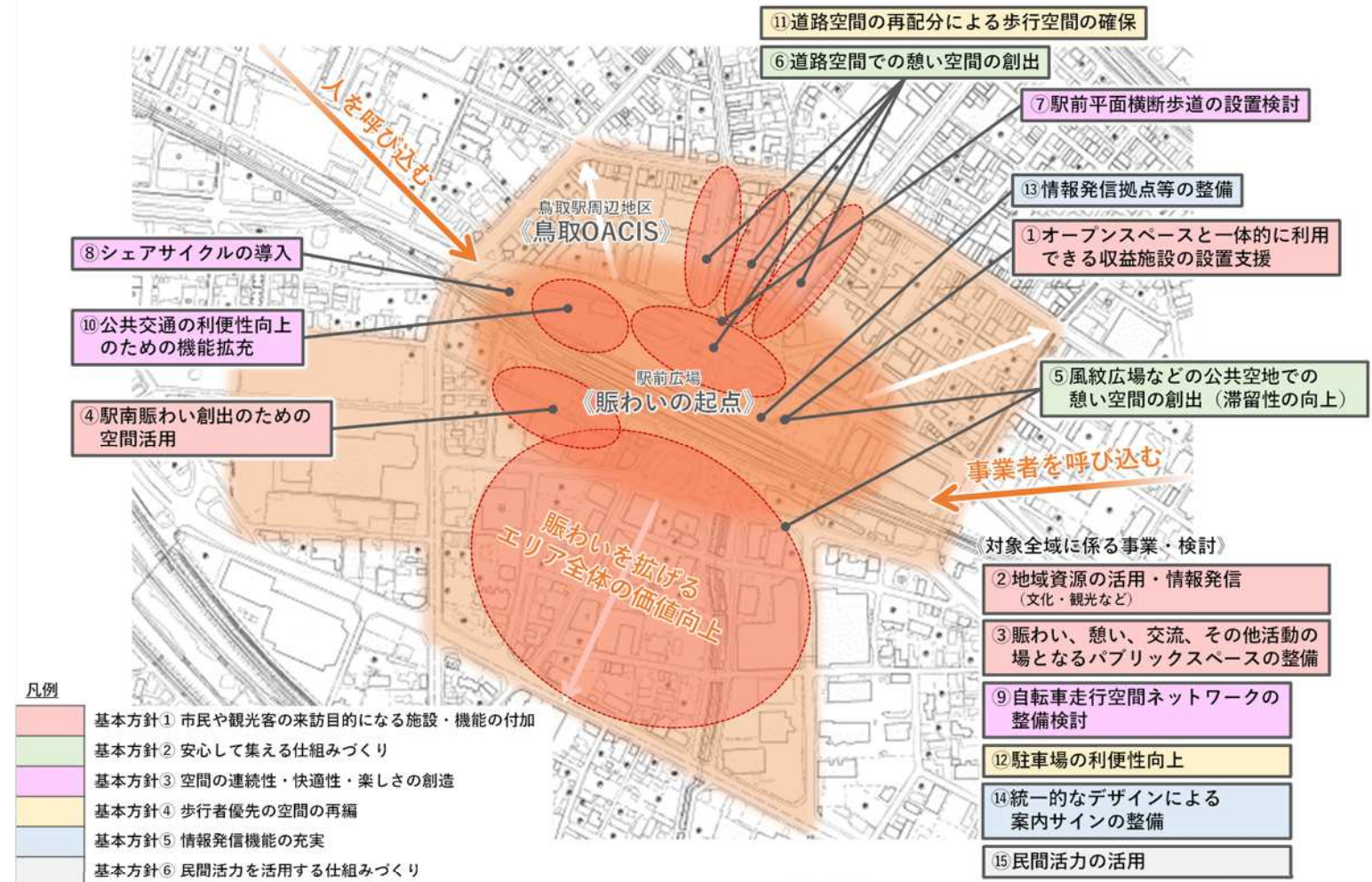
- ・地域資源情報等の発信 (文化・観光など)
- ・統一的なデザインの案内板の整備

⑥ 民間活力を活用する仕組みづくり

- ・公民連携体制の強化

個別事業の全体イメージ

今後10年間で優先的に取り組むべき主な個別事業の全体イメージは次のとおりです。



※本構想に掲載している個別事業案とイメージは、今後の駅周辺地区のめざすべき姿、取り組みの方向性を示すものです。
※本構想に掲げる個別事業案は現時点で想定されるものであり、具体的な事業は、鳥取駅周辺再生基本計画において検討します。